

小林市立三松小学校の学力向上への取組

1 平成17年度の本校の学力調査結果及び意識調査結果から見た課題

(1) 学力調査結果からの課題

算数の場合、内容別では、「概数」「円と球」で落ち込みが見られ、領域では、「図形」や「数量関係」が苦手である。さらに、理科の場合、「地球と宇宙」「生物と環境」の領域の正答率が低く、社会科においては「資料の活用」と「知識・理解」の観点の正答率が低い状況にあった。さらに、詳しく個別の結果を分析してみると、個人差が大きく到達度の低い児童の学力を上げる必要があることが明らかになった。また、全体的に到達度が低い領域や内容があるため、重点的な取組が必要であることが明らかになった。また、理科の内容などにおいては、身近な自然の事象等と関連させたり、課題意識をもち実験及び観察等の活動を十分行わせる中で確実に理解させるよう工夫する必要がある。

(2) 意識調査結果からの課題

学校での学習への取組や家庭での生活や学習についての様々な課題が明らかになった。

テレビやゲームに費やす時間は、平日、休日ともに、県平均を上回る傾向にあり、読書の時間や学習の時間についても平日、休日ともに、県平均を下回る傾向にある。このことから、テレビ等の視聴時間の減少と読書や学習時間の増加とその習慣化が図られれば、今以上の効果が表れることが期待できる。

また、家庭での会話の時間についても、県平均より少ない傾向が見られ、このことが友達に分かりやすく伝えるなどの子どもたちの言語能力や表現力にやや欠けているなどの実態につながっているようである。

2 学力向上に向けた課題解決への具体的な取組

(1) 学力向上に向けた経営方針

- ① 学校経営の基本方針の第1に「わかる授業で基礎学力の向上や確かな学力の育成を図る。」と掲げ、少人数指導や習熟度別授業など個に応じた指導の展開を図った。
- ② 教材や指導方法を工夫するなど発展的な学習で一人一人の個性に応じて子どもの力を伸ばすよう指導の充実を図った。
- ③ 朝の学習タイムや読書活動を実施するなど、学ぶ喜びを体得できる機会の充実を図り、学習習慣を身に付けるよう工夫した。
- ④ 家庭学習の習慣化を図り、学習内容の充実と定着化を図った。

(2) 教育課程内の取組

① 校内研修の取組

本校では、「確かな学力を身に付け、自ら課題を追究する児童の育成」という研究主題を掲げ研究を行ってきた。研究の柱には、「算数科における指導の重点化」と「指導過程の工夫」が挙げられる。「算数科における指導の重点化」ということでは、学力調査の結果を受け、学年を中心に分析し問題点を抽出した。そこで分かった内容を受け、「最重点単元」（学年全体として正答率の低い内容に関する単元）や「重点単元」（個人差の大きい内容に関する単元）を設定した。最重点単元については、教科書配当時数より2時間多く配当して、単元導入時に前学年の既習事項の復習を1時間、単元のまとめや復習の時間を1時間確保し、指導の充実を図った。

次に、「指導過程の工夫」においては、問題設定の工夫や「具体・映像・記号」の認知過程の位置づけ、数学的な考え方に着目したまとめ方を行うなどの研究をとおして、自ら課題を追究しようとする意識をしっかりと持てるように基本的な指導過程の流れを工夫した。さらに、学び方や考え方が定着できるよう継続的に授業改善を図った。

② 小・中連携による教科別研究

小・中連携による各教科部会を定期的に行った。教科部会は内容や指導方法など教科の特質を考慮して6つのブロックに分け、小・中学校の職員による合同研修会を行った。

算数・数学部会では、両校で実施する授業研究を中心として、小学校から中学校の9か年を見通した指導の系統性やポイントを出し合い、共通理解するなど相互の理解を深めることができた。さらに、これらの研修の成果をそれぞれの学校での授業や教材研究に生かし、重点的に、また力を入れた指導に心がけた。

(3) 教育課程外の取組

① 朝の計算タイム・漢字タイムの取組

学力調査結果の分析により学年全体として到達度の低い内容や領域の問題を中心に、朝の習熟の時間（計算タイム・漢字タイム）の計画を立て、重点的に指導を行った。

② サマースクールの取組

国語・算数で個別に支援を必要とする児童を対象に実施した。前期4日間、後期3日間の計7日間実施した。学力検査の分析の結果本人の到達度が低い内容や領域、7月までの当該学年の内容で十分に理解できていない単元等を中心に、担任以外の教師も指導に入り少人数での指導を行った。

(4) 保護者・家庭・地域との連携

① 「家庭学習の手引き」の活用

平成16年度に、小・中連携で作成した「家庭学習の手引き」の内容を見直し、各家庭に配付したり、家庭学習の内容や時間等について参観日の懇談等で啓発したりして、保護者の家庭学習への意識を高めるようにした。

② フリー参観の実施

フリー参観で保護者が全学級を参観する機会を設け、授業についての意見をいただくことにより、教師の指導力の向上につながるようにした。

③ 家庭への啓発

「学校たより」等をとおして、学力調査の結果や考察について説明し、今後の取組や家庭学習の必要性についての啓発を行った。

3 成果と課題

(1) 成果

- 教師集団が算数を中心にした主題研究をとおして、児童の問題意識を大事にして問題設定や指導過程を工夫するなどの、授業改善が図られた。
- 教師自身が学力調査の結果を分析する研究をとおして、児童の学力向上を系統的、計画的に実践しようとする意識改革が図られた。
- 学力テストの分析をもとに、意図的・計画的に教育課程内外における対策をとったことで、年度末に行った同問比較調査では、ほとんどの内容について目標を達成することができ、その対策の有効性を確認することができた。
- 家庭や保護者の中でも、学校の取組への理解が図られ、家庭学習の充実のための助言や賞賛などが多く見られるようになり、学力向上を含めた教育活動への関心も高まってきた。

(2) 課題

- 教育課程内で確かな学力を身に付けることができるよう、教師一人一人の指導力をさらに向上していく必要がある。
- 少人数指導の充実や個別指導の時間の確保など、個に応じた指導の充実などきめ細かな指導を行うことで、児童一人一人に対応した学習の改善を図っていきたい。
- 家庭や保護者に向けた啓発活動や説明の場を定期的に設定し、家庭においても学力向上について関心を高め、適切な支援の充実を図っていく。